

長崎大学病院 後期研修

子どもの心の診療医養成コース



子どもの心の診療医養成コースの4つの教育病院の特色

長崎大学病院 (精神科神経科・小児科)

- * 精神科、小児科、その他の診療科を有する総合病院
- * 研究・教育施設が併設
- * 身体合併症や希少事例に対する高度な総合医療の提供
- * 児童精神科(子どもの心の診療科)の専門医養成

長崎県精神医療センター (精神科・神経科)

- * 「全国児童青年精神科医療施設協議会(全児協)」加盟の精神科専門病院
- * 精神科救急医療施設や医療観察法権を有する高度精神科医療機関
- * 児童思春期病棟32床(18床は児童思春期専用ユニット)
- * 主に中学生以上の思春期患者、特に重度行動障害を有する子どもの治療

長崎県立こども医療福祉センター (小児心臓科・小児発達科・小児神経科)

- * 県立肢体不自由児施設と小児科・小児整形外科の医療機関との統合施設
- * 「長崎県発達障害者支援センター」しおさい」を併設
- * 小児心臓内科医や小児神経科医が診療にあたる
- * 主に幼児から中学生までの児童思春期患者、特に心身症、てんかんの治療

医療法人カメリア 大村共立病院 (精神科・児童精神科・心臓内科)

- * 「全児協」加盟の精神科専門病院
- * 児童思春期病棟36床(18床は児童思春期専用ユニット)
- * 情緒障害児短期治療施設「大村権の森学園」が隣接
- * 主に小学生以上の児童思春期患者、特に重度待児童の精神・行動障害の治療

子どもの心の診療医養成コースに関するお問合せ

長崎大学病院 医師育成キャリア支援室

TEL:095-819-7847

FAX:095-819-7882

MAIL: career@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL: http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/

精神科神経科

TEL:095-819-7293

小児科

TEL:095-819-7298

目次の概要

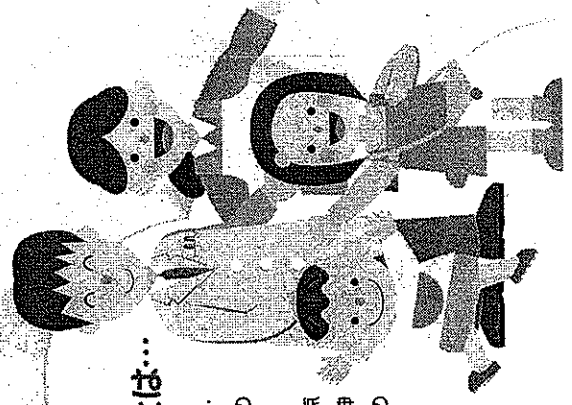
「子どもの心の診療医」養成コースは、精神科と小児科に関わる新しい領域の専門性の高い医師を目指す4年間のコースです。現時点で児童精神領域の専門医制度は確立されていないため、精神科と小児科の研修を幅広く行い、最終的には小児科領域の専門資格が取得できるようにプログラムを構成します。

研修は前期3年と後期1年に分かれます。前期の3年間は、精神科と小児科を6か月～1年単位で組み合わせて研修を行います。その間に精神科・小児科どちらの専門医を目指すかを決定し、後期の1年間は将来自分が専門とする科をローテーションします。前期3年の研修を、将来精神科医(精神科専門医・精神保健指定医)を目指す者は精神科2年・小児科1年、小児科医(小児科専門医)を目指す者は小児科2年・精神科1年となるように構成すれば、4年間の研修で、各専門医に必要な3年以上の臨床経験をj得ることができます。なお、将来専門とする科を求めず、4年間にわたって両科を均等に研修することも可能です。

研修は、長崎県子どもの心の診療拠点病院機構推進事業*と協力し、長崎大学、長崎県精神医療センター、長崎県立こども医療福祉センター、医療法人カメリア大村共立病院などの、子どもの心の診療に携わる指導医と連携して行います。

新しい分野ですので、まだ実績はありませんが、精神科領域では、各病院をローテーションし、精神および行動の障害のある子ども(道徳障害、発達障害等で行動上の問題がみられる症例、うつ病、統合失調症などの早期発症例、等)の治療についての研修を行います。

小児科領域では、長崎大学病院(およびその研修関連病院)において、小児医療全般についての研修を行い、県立こども医療福祉センターで、小児心身医学・発達障害・てんかん学領域の研修を重点的にを行います。



※子どもの心の診療拠点病院機構推進事業とは…

精神疾患や発達障害の治療に留まらず、不登校・子ども虐待・リストカット・自殺など、子どもの心の問題は多岐にわたります。そのなかで、子どもの心の支援体制の充実が、多く求められています。

「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」とは「子どもの心の診療拠点病院」を各県に定め、教育機関(保育園・幼稚園・学校など)、児童相談所、精神保健福祉センター、発達障害者支援センター、保健所、福祉施設、警察、地域の病院などと協力し、子どもの心のケアを行っていく事業です。

推進事業公式ホームページ: <http://kokoro.ncchd.go.jp/>

長崎県推進事業ホームページ: <http://www.childrens-minds.net/>

精神科 神経科

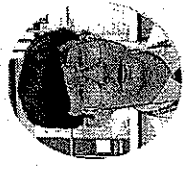


教授 小澤 貴樹

精神科神経科ホームページ <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>

シーボルトの故郷として知られるドイツ・ヒュルツブルグ、長崎大学の姉妹大学であるヒュルツブルグ大学では成人の精神科講座の隣に児童思春期の精神科講座が併設されています。欧米では内科と小児科があるように、大人の精神科と子供の精神科が一元的にあります。残念ながら日本では子ども精神医学専門の講座はなく、児童思春期の専門医家数も欧米の十分の1以下、日本は世界でも児童思春期精神医療の遅れが大きき指摘されている国といえます。そこで長崎大学では小児科と精神科が連携(リンク)して画期的な研修プログラムを開発しました。これは大学内だけでなく、県内の子供の心と体の専門家たちの場と人材を結集させ、比較的短期間で児童思春期の精神医学的な知識と技術と身体的基礎の研修を積み、トータルで子供が診られる専門性を有する若手医師を養成するものです。長崎地で医師のニューフロンティアに挑戦し、日本を牽引してみませんか。

小児科



教授 森内 浩幸

A君は中学三年生。高校受験も心配だし、クラス替えも人間関係でも悩んでいます。腹痛や下痢を慢性的に訴えるようになり、二学期に入って増悪したため過敏性腸症候群や不登校の疑いで紹介されましたが、実は潰瘍性大腸炎でした。Bちゃんは激しい頭痛と嘔吐を訴え入院した女の子です。視野狭窄や失調症を示す所見もあり、脳腫瘍も疑われ精査しましたが異常が見つからず、最終的には父親のDVによる心因性反応だとわかりました。Cくんは急性白血腫で長い闘病生活中、仕事を抱えた母親が付添いできかないこともあって、特に夜間は不安感が強い不定愁訴が出現します。医療スタッフができただけ側に居てあげて声掛けするうちに次第に落ち着いて来ましたが、Dちゃんは原因不明の日和異感症を繰返す乳児です。先天性免疫不全症が疑われましたが、実は母親による「代理ミューンヒンバウゼン症候群」(自分に周囲の関心を引きつけるために、我が子に病氣や怪我を捏造すること)でした。(以上、実在患者さんの大幅脚色版です。)

子どもの心と体を分けて診療することはできません。また母親をはじめとする周囲の人達との繋がりが強く、そこまで一体化して考えなければいけません。子どもの心を守るため、広く深く暖かい診療を目指して一緒に学んでいきましょう。

小児科ホームページ <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/peditrics/>